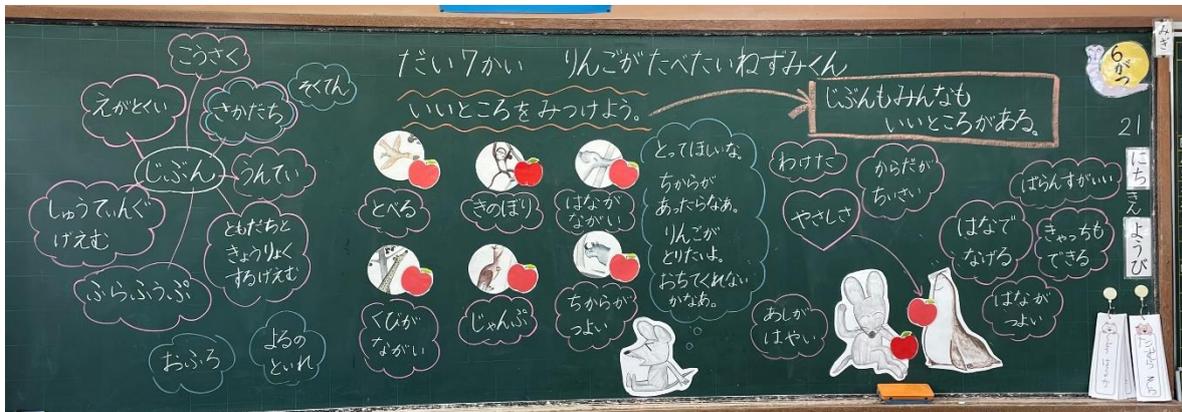




6月21日には、道徳の授業の参観をしていただきありがとうございました。各学年、学級でそれぞれの個性を生かした授業でした。また、たくさんのメッセージをいただき、教職員や子どもたちも励みになりました。頂いたすべてのメッセージをご紹介しますことはできませんが、参観授業の様子をお伝えします。

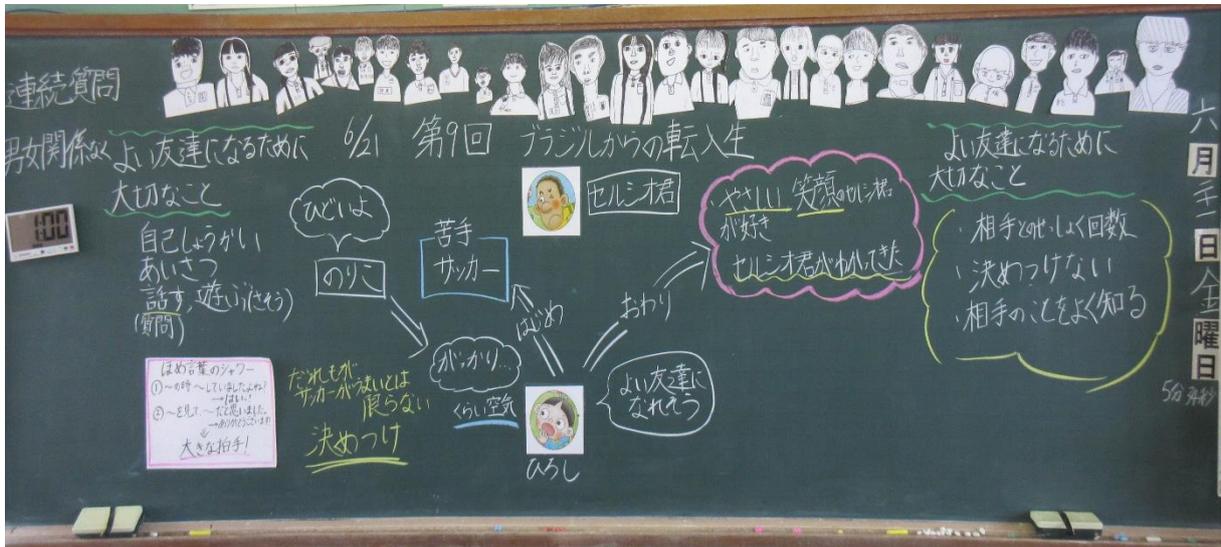
1年生 「りんごがたべたいねずみくん」



苦手なことやできないことに、つい目が向いてしまうことがあります。そういった時に子供をネガティブな思考にさせてしまっているのではと後悔してしまいます。今回の授業では、ねずみくんや他の動物たちの得意なことに目を向けて楽しく授業をしていただきました。自分だけでなく、周りの人達のいいところや好きなどころをこれからも見つけてほしいと思います。学校生活では、友達との付き合いが最も大切だと考えています。自分を好きになることで、友達にも優しく接してほしいです。ありがとうございました。

1人1人いいところがあることが分かる授業だったと思います。子供には、他の子のいいところを見つけることが大事なんだよと伝えました。それと同時に、自分にもいいところがあるから自分を大切にしてほしいということも伝えました。1人1人が大切な存在なんだということが分かっていってくれたらいいなと思いました。素敵な授業でした。

4年生 「ブラジルからの転入生」



一方的に発表するのではなく、みんなに問いかけたり、問いかけに対してそれぞれの意見を言ったりする姿に成長を感じました。

問題に対して友達と対話することで、様々な考えに触れたり、気づきがあったりしたのでないかと思います。道徳は多様な考え方があり、何が正解か難しいですが、子どもたちが自分の考えを主体的に話し合っていて考えるということがそれぞれの学びに繋がるのかなと思いました。

4年生保護者

「ぼく」たちは、転入生のセルシオ君について、ブラジルから転入してくるということだけで、サッカーがうまいと決めつけていました。しかし、サッカーが苦手なセルシオ君の様子を見て落胆してしまいます。のり子の一言により、次第にセルシオ君への見方を変え、明るいあいさつや笑顔というよいところに目を向けることで、よりよい人間関係を築けるようになっていくというお話です。

「よい友達になるために必要なことは何か」を考えることを通して、子どもたちは、「相手のことをよく知る」「決めつけない」などの、気づきを得ていました。